

世界が感動した「ありがとう」 ～「ありがとう」をたくさん言う温小っ子に！～

今月の全校朝会（10日）では、「3つの『あ』」（「あいさつ」「あんぜん」「ありがとう」）の中の「ありがとう」の話をしました。

サッカー・ワールドカップ（W杯）ロシア大会（今年6月～7月に開催）で、日本は1次リーグを見事に突破し、決勝トーナメントに進むことになりました。1回戦（ベスト16）の相手は、世界ランキング3位のベルギーです。世界のメディアは、こぞって日本の大敗を予想していました。

ベルギー戦が始まると、日本は大方の予想を覆し、2点を先行して前半を折り返しました。その時、初のベスト8進出が現実となろうとしていました。

しかし、後半に連続失点して追いつかれ、さらにロスタイムに勝ち越しゴールを奪われ、2-3で初のベスト8進出を逃してしまいました。

終了のホイッスルが鳴った瞬間、日本選手はピッチに倒れこんでしまいました。みんな目に涙を浮かべていました。残酷な幕切れでした。

結果は日本の逆転負けでしたが、「赤い悪魔」と恐れられていたベルギーを追い詰めたことで、世界中の人々（各国のメディア）は、日本の大健闘を称えました。

そして、さらに世界中の人々を感動させることができました。

日本代表が使用したロッカールームの写真を、プリシラ氏（FIFA関係者）がTwitterに投稿すると、世界から称賛の声が集まりました。きれいに掃除され、極めて美しい状態に保たれていたからです。また、机の上にはロシア語で「スパシーバ（ありがとう）」のメッセージが書かれた紙も残されていました。

プリシラ氏は「日本のサポーターは、スタジアムでゴミ拾いをしていました。すべてのチームにとって、模範となります！」というコメントと共に投稿しました。

この投稿に対して、返信やリツイートなどで、世界各国から『「ありがとう」のメッセージは桁違いだ』『「真の勝者がいた」などの声が寄せられました。善戦したが逆転され、悔しい結果となった日本でしたが、「来た時よりも美しく」を実行し、「ありがとう」の言葉と千羽鶴を残して感謝の気持ちを忘れなかった日本選手、そしてスタッフに対して、世界中の人々が感銘を受けたのです。

「ありがとう」は、日本一美しい言葉とされています。美しい言葉を使えば使うほど、その人の心は美しくなります。『「ありがとう」の一言が、幸せにするのは2人です。言われた人と言った人』という言葉もあります。

これからもたくさん「ありがとう」を言って、学校中、そして町中に「ありがとうの花」をたくさん咲かせてください。

子どもが大人に言われて一番嬉しい言葉も、「ありがとう」です。「ありがとう」は、自己有用感につながる言葉だからです。自己有用感とは、「自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということ、自分自身で認識すること」です。自己有用感は、

自信を高め、安易に問題行動に走ることを抑止したり、危険なものに近づくことを抑制したりする働き

があると言われています。ことあるごとに、一人一人が友達に、家族に、地域の方々に、そして誰に対しても「ありがとう」をたくさん言うように心がけ、「ありがとう」の声があふれる温泉小学校、温泉小学校区にしたいと考えています。

保護者の皆様に感謝 ～駅伝試走 サンビーチ～

お父さん、お母さんにお礼



保護者の皆様による鉄壁の「選手児童の安全確保」

ペースメーカー目指して